

## 組合員活動研修交流会に県内の 5 生協・67 名が参加「平和」について考え合いました

3 月 14 日 (火) 青森市アスパム 4 階「奥入瀬」において、2016 年度県連組合員活動研修交流会を開催し、青森県民生協、コープあおもり、青森保健生協、津軽保健生協、八戸医療生協の組合員 62 名と県生協連、講師合わせて 67 名が参加しました。

今回は、「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」の本格的な取組み開始に向けて、何故生協が平和の取組みを行うのかとヒバクシャ国際署名に取り組む意義を学びあい、今後の取組みを話し合うことを目的に開催しました。



講師の虫本氏

## ●日本生協連組合員活動部の虫本 正志さんが講演

虫本さんは、クイズなどを交え、生協が平和活動をすすめる理由、核兵器を巡る世界の動向とヒバクシャ国際署名の意義などをわかりやすくお話いただきました。以下講演の概要です。

- ◆「平和とより良き生活のために」を謳った日本生協連の設立宣言 (1951 年) 以降の平和の取組みと、現在の全国の活動紹介
- ◆2017 年は、核兵器の「非人道性」を訴える核兵器非保有国が中心に推進した決議により「核兵器禁止条約」について 3 月と 6・7 月に国連の枠組みで議論される重要な年。6 月中旬ピースウェーブ予定
- ◆71 年前のヒロシマ・ナガサキの被爆の実相とヒバクシャの命と暮らしを守るために設立された「日本被団協」の運動の歴史、なぜ日本生協連が「ヒバクシャ国際署名」を呼びかけているのか
- ◆100 万筆をめざした取組みの提案と全国の活動の紹介

\* 生協がなぜ平和活動に取り組んできたのかを再認識できて良かった。日生協が「ピースメッセンジャー」の指名を受けていることは初めて知りました。

\* 核軍縮が進まない理由が、核保有の事実が強い脅しとなるからというのが強く印象に残りました。

## ●講演：「明日へ遺す想い」 青森県原爆被害者の会の田中 正司会長

田中会長は、18 歳当時ヒロシマで被爆した時の様子、兵隊として被爆者の救護に携わった経験とその後の人生をお話しいただきました。戦後、広島での出来事を語る事がなかった田中さんは、退職後「被爆者の証言集」への寄稿をきっかけに原爆被害者の会に入会しました。88 歳の年に会長となり現在 90 歳の田中さんは、「自分は娘や孫・ひ孫へと『命の連鎖』をつなぐことができたが、原爆のためにその『命の連鎖』を断ち切られた方々のために、何とかしてヒバクシャ国際署名を成功させて、生きていうちに核兵器をなくしたい」という熱いメッセージをお伝えいただきました。



\*被爆者の方から直接お話を伺うのは初めてで大変心を打たれました。被爆国の日本で、核兵器の廃絶は必ずです。また、命の連鎖の“ありがたさ”を、強く感じました。ありがとうございました。お元気でがんばっていただきたいです。

● 県内の生協が力を合わせ「ヒバクシャ国際署名」のとりくみを広げることを確認

～ 8グループに分かれグループ討論・意見交流～

午後の部は、8つのグループに分かれて、午前中の講演の感想を交えた自己紹介の後、

ヒバクシャ国際署名の取り組みを広げるためにとりくみたいこと・すすめたいことを話し合いました。活発な意見交流の中で、生協どうしの協力を強めて、子どもたちを含めた沢山の方に伝えていきたいという想いを強めました。

県内の生協が力を合わせて「ヒバクシャ国際署名」のとりくみを広げていくことを申し合わせました。

